

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間: 2004年10月上旬から11月中旬までの旬別

対象海域: 道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業: さんま棒受網漁業

対象魚群: 南下回遊群

#### 1) 道東海域

- (1) 来遊量: 10月上旬は、高位水準であるが、徐々に減少する。10月中旬～下旬にかけて急激に減少し、11月上旬には低位水準で推移する。
- (2) 漁場: 10月上旬は、落石～釧路沖と襟裳岬周辺に漁場ができる。145°E付近に北上暖水があるため、10月中旬は厚岸～釧路沖に漁場が残るものの、水温の低下に伴い10月下旬以降は襟裳岬南沖が主漁場となる。

#### 2) 三陸海域

- (1) 来遊量: 道東海域の来遊量が減少する10月上旬に増加し、中位水準となる。10月下旬から減少し、11月上旬以降は低位水準となる。
- (2) 漁場: 10月上旬は、三陸北部の久慈～宮古沖が主漁場となる。10月中旬は、三陸中部の宮古～気仙沼沖が主漁場となるが、10月下旬以降は南偏傾向となる。

#### 3) 常磐海域

- (1) 来遊量: 10月上旬～中旬は、低位水準ながら来遊があるが、本格的に来遊するのは10月下旬以降となる。来遊量はゆるやかに増加を続け、11月上旬以降は中位水準で推移する。
- (2) 漁場: 10月上旬～中旬は、常磐北部において断続的ながら漁場ができる可能性がある。10月下旬は、常磐北部および常磐南部～鹿島灘で散発的に漁場ができる。11月上旬以降は、常磐南部～鹿島灘が主漁場となり、持続する。

### 2. 予測の概要

海 域		10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬	11月中旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位減少	急減	低位減少	低位水準	断続的
	漁場	落石～釧路沖・襟裳岬周辺	厚岸～釧路沖・襟裳岬南沖	襟裳岬南沖	襟裳岬南沖	散発的
三陸海域	来遊量					
	動向	中位増加	中位水準	中位低下	低位水準	低位水準
	漁場	久慈～宮古沖	宮古～気仙沼沖	南偏傾向	南偏傾向	南偏傾向
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位水準	低位増加	中位水準	中位水準
	漁場	北部	北部	北部・常磐南部～鹿島灘	常磐南部～鹿島灘	常磐南部～鹿島灘

### 3. 漁況の経過概要

(9月中旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、前旬並み。道東海域まで来遊した魚群は引き続き少なく、平年・前年を大きく下回る水準であった。日別 CPUE (1網当たりの漁獲量) から判断すると、12日にかけて来遊量が増加したが、その後15日にかけて減少。16日～20日にかけてやや増加し、来遊量は期前半の水準へ戻った。

##### (2) 漁場

今期の道東海域の主漁場では、主に小型船が操業した。12日夜は、落石南南東 25 海里付近の表面水温 14 台が主漁場。1 隻当たり 4～5 トン程度漁獲する船が多く、満船となる船もあった。13日夜は、落石東南東 15 海里付近の表面水温 14 台と厚岸大黒島南 30 海里付近の表面水温 14 台が漁場となった。落石沖の漁場は低調であったが、厚岸沖の漁場は 1 隻当たり 4～5 トン程度漁獲があった。14 日夜は時化のため操業できず。15 日夜には、釧路南 30～35 海里から厚岸大黒島 30～35 海里の表面水温 13～14 台へと漁場が移動。群は全般的に薄く、漁獲は 1 隻当たり 1 トン程度と低調であった。16 日・17 日夜には、再び霧多布南南東 20～30 海里から落石南東 20 海里の表面水温 14 台が漁場となり、小型船で満船となる船もあった。19 日夜は納沙布岬南 20 海里の表面水温 14 台、20 日夜は落石南南東 30 海里の表面水温 15 台で、漁獲は平均 8 トン程度。19 日夜は時化のため操業できなかった船もあった。

##### (3) 魚体

8 月上旬より大型の割合が少なくなった。体長 29cm 以下の中型の割合が 2～3 割以上の時が多く、また体長 24cm 以下の小型魚も出現するようになった。特に 13 日夜の落石沖の漁場は、約 4 割が中型魚・小型魚であった。大型魚は 30～31cm モード、中型魚は 26～27cm モードであった。